

## 令和5年度行政事業レビューシート

( 文部科学省 )

事業名	大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業			担当部局庁	高等教育局	作成責任者	
事業開始年度	令和6年度	事業終了(予定)年度	令和15年度	担当課室	参事官(国際担当)付	参事官(国際担当) 小林 洋介	
会計区分	一般会計						
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定)「第2期教育振興基本計画」(平成25年6月14日閣議決定)「未来を創造する若者の留学促進イニシアティブ」(令和5年4月27日教育未来創造会議第二次提言)		
政策	4 個性が輝く高等教育の振興			主要経費	教育振興助成費		
施策	4-1 大学などにおける教育研究の質の向上						
政策体系・評価書URL	-						
事業の目的 (5行程度以内)	大学が核となって地域と共に国際化を図ることにより、留学生を含めた多様な人材が卒業後活躍できる地域における多文化共生社会の実現に寄与する。また、地理的・言語的に幅広い国からのアクセスが容易ではない我が国の大学が、質の高い高等教育を海外で展開することで世界の高等教育の発展に貢献する。その際、現地の社会課題や地球規模課題の解決を教育活動に取り入れることにより、留学生と地域の交流を深めるとともに、世界において日本の大学教育の存在感を発揮する。これらの地域と連携した国際化及び教育の海外展開の相乗効果により、日本が留学先として選ばれる国となるとともに、多様な他者と協働して新たな価値を創造することができるグローバル人材の育成を行う。						
現状・課題 (5行程度以内)	教育未来創造会議において、2033年までに「日本人学生の留学への派遣50万人」「外国人留学生の受入れ40万人」とすることが示されており、留学生交流を抜本的に拡大する仕組みが必要。留学生受入れでは、卒業後のキャリアを示せることが重要であるが、現状卒業後就職を希望する留学生が約6割を占めるところ、実際の就職率は5割弱であり、特に都市圏から離れた地域では就職率が更に下がる傾向がある。また、留学生を多く受け入れている海外諸国と比較して、海外展開している日本の大学数は少なく、世界の高等教育への貢献が見えづらい状況にある。同時に、日本が世界に開かれた社会となるためには、留学生の受入れだけでなく、より多くの日本人学生が国際社会の一員としての素養を持つことが必要であるが、どのために重要な留学は大半が1か月未満に留まっており、より多くの日本人学生を質の高い留学へ送り出す環境を整備する必要がある。						
事業概要 (5行程度以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会と一体となった高度グローバル人材の育成・定着の促進やその基盤となる多様な人材が活躍できる共生社会の実現に向けた取組みの支援を通じ、大学内部に止まらない国際化の高度化を推進する。</li> <li>国内外の大学機関等との連携を促進し、日本人学生と留学生が共に地域の課題解決に貢献する国際共修の仕組みを整え、地域における新たな価値やソーシャルイノベーションの創出に貢献することで、留学生が在学中から地域と協働する仕組みを構築する。</li> <li>海外への日本の大学の分校やサテライトキャンパス等の設置等を支援し、現地の社会課題解決や地球規模課題に資する国際教育活動の展開を促進する。</li> </ul>						
事業概要URL	-						
実施方法	補助						
補助率等	定額補助						
予算額・執行額 (単位:百万円) (インプット)	予算の状況	当初予算(A)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度要求
		補正予算(B)	-	-	-	-	-
		前年度から繰越し(C)	-	-	-	-	-
		翌年度へ繰越し(D)	-	-	-	-	-
		予備費等(E)	-	-	-	-	-
		計(F) =(A)+(B)+(C)+(D)+(E)	-	-	-	-	6,000.6
		執行額(G)	-	-	-	-	-
		執行率(%) =(G)/(F)	-	-	-	-	-
		当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) =(G)/{(A)+(B)}	-	-	-	-	-
		歳出予算項目	令和5年度当初予算	令和6年度要求	主な増減理由(・要望額・予備費)		
令和5・6年度 予算内訳 (単位:百万円)	(項)	高等教育振興費			重要政策推進枠6,001百万		
	(目)	国際化拠点整備事業費補助金		6,000			
	(目)	諸謝金		0.1			
	(目)	職員等旅費		0.2			
	(目)	委員等旅費		0.2			
	(目)	庁費		0.1			
	(目)	その他		-	▲ 0		
計(A)			-	6,000.6			

活動内容① (アクティビティ)		大学が核となり、大学・自治体・企業の三者がビジョンを共有し、地域や社会課題の解決に共に取組むことを通じて、特に英語のみで修了できる留学生を中心としたリクルーティングから育成・就職・定着促進を行う。								
↓										
活動目標及び活動実績 ① (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		大学・自治体・企業が一体となった留学生のリクルート活動を実施	連携組織が関与する留学説明会実施数、参加者数	活動実績	-	-	-	-	-	-
				当初見込み	-	-	-	-	-	-
↓										
成果目標①-1の 設定理由 (アウトプット からのつながり)		大学・自治体・企業等の中でビジョンを共有し、それぞれの資源の投入と活用について十分な検討と調整がなされることで、リクルートした留学生にとっても魅力的な教育プログラムが出来上がり、留学生の就職・定着に繋がる教育環境が整備されるため。								
成果目標及び成果実績 ①-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		自治体・企業からの学修・研究課題、実践フィールド、ノウハウ等の提供を受けたプログラムの開始(自治体・企業人の参加も想定)	産官学協働プロジェクト型教育の実施数と参加者数	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
↓										
成果目標①-2の 設定理由 (短期アウトカム からのつながり)		産官学協働プロジェクト型教育の実施を通じて、受入機関と留学生双方が互いを理解するとともに、中長期的なキャリア教育を実施する上での課題と対策が見えてくることから、これらを踏まえた国際通用性あるキャリア教育が可能となるため。								
成果目標及び成果実績 ①-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		国際通用性あるキャリア教育の実施	・アントレプレナー教育、ビジネス日本語教育等実施数 ・中・長期インターンシップの実施機関数と参加者数	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
↓										
成果目標①-3の 設定理由 (長期アウトカム へのつながり)		上記を通じて、留学生と受入機関の双方において長期に渡る関係性が構築されることで、ミスマッチが生じ難くなり、優秀な留学生の我が国への定着が進むと考えられるため。								
成果目標及び成果実績 ①-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		留学生等の我が国・地域への貢献・活躍	留学生の国内定着率 (母数は採択大学の正規留学生卒業生の内、学内進学者を除く数)	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ①について定性的なアウトカムを設定している理由								
		アクティビティ①についてアウトカムが複数設定できない理由								

活動内容② (アクティビティ)		共生社会の促進に向けた取組み(地域・企業への多文化共生社会に関する教育プログラムの提供を含む)								
↓										
活動目標及び活動実績 ② (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		・地域・学生への共生社会に関する調査の開発と実施 ・自治体・企業等への共生社会に資する教育プログラム(留学生との共修機会含む)の開発	・共生社会に関する調査実施規模や実施数 ・共生社会に資する教育プログラム開発数	活動実績	-	-	-	-	-	-
				当初見込み	-	-	-	-	-	-
↓		成果目標②-1の 設定理由 (アウトプットからのつながり)								
		・地域(自治体・企業等)や学生(日本人学生、留学生)の多文化共生に関する意識や行動等を把握することで、実際の地域や社会活動へ参加する有効な制度整備につなげるとともに、その課題に対応した教育プログラムを効果的に実施できるため。								
成果目標及び成果実績 ②-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		・留学生の地域活動の活性化に関する制度整備と実施 ・自治体・企業等への共生社会に資する教育プログラムの提供	・留学生の地域活動の活性化に関する制度整備・実施状況 ・共生社会に資する教育プログラム実施・参加者数	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
↓		成果目標②-2の 設定理由 (短期アウトカムからのつながり)								
		・留学生や日本人学生、自治体・企業等と一緒に地域課題解決に向けた学修を行うことに加え、留学生が継続的な地域活動等に参加することで、地域における新たなイノベーションが生まれ、留学生等(卒業生含む)が中核となった地域の活性化に資するモデルが創出されることが想定されるため。 ・また、共生社会の促進に向けて、自治体職員・企業の社員等がグローバルな視点や地域課題解決に向けた高い専門性を持つことが重要であり、その際、大学院教育等の活用が有効であると考えられるため。								
成果目標及び成果実績 ②-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		・地域の活性化に資するモデルの創出 ・自治体職員や企業の社員等による、高い専門性を持った課題解決手法等の修得	・地域の活性化に資する取組み等の提案数 ・自治体職員、企業の社員等の大学院教育等への参加状況	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
↓		成果目標②-3の 設定理由 (長期アウトカムへのつながり)								
		・地域の活性化に資する取組み等が展開されることにより、地域課題を踏まえた留学生等の起業等へのチャレンジや、高い専門性をバックグラウンドにした自治体職員等の地域課題解決に取り組む環境が生まれることにより、地域のグローバル化に向けた社会課題解決の取組みの実装が進み、共生社会に向けた意識や行動等も高まると考えられるため。								
成果目標及び成果実績 ②-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		共生社会の推進、地域社会のグローバル化による地域課題の解決	・共生社会に関する調査における意識・行動等の向上 ・起業チャレンジや社会課題解決の取組みの実装数	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ②について定性的なアウトカムを設定している理由								
		アクティビティ②についてアウトカムが複数設定できない理由								

活動内容③ (アクティビティ)		日本の大学が分校やサテライトキャンパス等、海外拠点を整備し、現地の学生や日本人学生の国際教育活動を展開する。								
↓										
活動目標及び活動実績 ③ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		各大学における海外拠点を軸とした、現地の社会課題解決や地球規模課題解決等に資する国際教育プログラムの構築	各大学における海外拠点を活用した国際教育プログラム構築数	活動実績	-	-	-	-	-	-
				当初見込み	-	-	-	-	-	-
↓		成果目標③-1の設定理由 (アウトプットからのつながり)								
		日本の大学が海外で現地の社会課題解決や地球規模課題の解決に資する国際教育活動を行うことにより、世界の高等教育の発展に貢献することから、本事業で構築・実施された国際教育プログラムの参加学生数を短期アウトカムとする。								
成果目標及び成果実績 ③-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		本事業によって構築された国際教育プログラムの参加学生数の増	本事業によって構築された国際教育プログラムの参加学生数	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
↓		成果目標③-2の設定理由 (短期アウトカムからのつながり)								
		国際教育プログラムにおいて、現地の学生や日本人学生にとって魅力的な共修プログラムが展開されることで、現地の学生の日本で学ぶ意欲がより醸成されることから、共修プログラムにおける継続的・自発的な学習環境の構築に向け、共修プログラムの継続参加者数やLMS等の継続した利用状況を中期アウトカムとする。								
成果目標及び成果実績 ③-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		現地学生と日本人学生による共修プログラムの継続的な参加やプログラム終了後の学生間による継続的・自発的な学修の環境の構築	共修プログラムの継続参加者数やLMS等の継続した利用状況	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
↓		成果目標③-3の設定理由 (長期アウトカムへのつながり)								
		日本の大学が海外で国際教育活動を行うことにより、世界の高等教育の発展に貢献し、日本の大学の魅力を世界に発信されることとなるため、海外からの留学生誘致に資するものとなることから、本事業で採択された大学における海外からの留学生在籍割合を長期アウトカムとする。								
成果目標及び成果実績 ③-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		令和15年度までに、各大学の学部における海外からの留学生の在籍割合を5%とする。	大学の学部における海外からの留学生の在籍割合	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の根拠として用いた統計・データ名(出典)/定性的なアウトカムに関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
アウトカム設定についての説明		アクティビティ③について定性的なアウトカムを設定している理由								
		-								
		アクティビティ③についてアウトカムが複数設定できない理由								
		-								

活動内容④ (アクティビティ)		海外からの留学生と日本人学生が共に学ぶ環境を構築することにより、日本人学生の留学への意識の醸成・必要な能力の育成を行う。								
↓										
活動目標及び活動実績 ④ (アウトプット)		活動目標	活動指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	5年度 活動見込	6年度 活動見込
		各大学における海外からの留学生と日本人学生の共修プログラムの構築	各大学における海外からの留学生と日本人学生の共修プログラムの構築数	活動実績	-	-	-	-	-	-
				当初見込み	-	-	-	-	-	-
↓		成果目標④-1の設定理由 (アウトプットからのつながり)								
		より多くの日本人学生を海外留学へ送り出すためには、日本人学生の海外留学挑戦に向けた意識醸成や価値観や背景の異なる他者との協働を行う力やコミュニケーション能力など、質の高い留学へ向けた支援が必要であることから、海外からの留学生との協働が行われる共修プログラム(事後フォローアップ含む)に参加している日本人学生の数を短期アウトカムとする。								
成果目標及び成果実績 ④-1 (短期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		各大学における共修プログラムに参加している日本人学生数の増	各大学における共修プログラムに参加している日本人学生数	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
↓		成果目標④-2の設定理由 (短期アウトカムからのつながり)								
		留学生との日常的な学びと学修への満足度を上げていくためには、共修プログラムを通じた留学生との学習環境が継続的・自発的になることが効果的であることから、共修プログラムの継続参加者数や継続したLMS等の利用状況を中期アウトカムとする。								
成果目標及び成果実績 ④-2 (中期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標年度 - 年度	
		共修プログラムへの継続的な参加や参加者のプログラム終了後の学生間による継続的・自発的な学修の環境の構築	共修プログラムの継続参加者数や継続したLMS等の利用状況	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
↓		成果目標④-3の設定理由 (長期アウトカムへのつながり)								
		留学生との日常的な学びと学修への満足度が、留学に対する意識を醸成し、必要な能力が養われることから、日本人学生の留学者の割合(オンラインを活用した留学を含む)を長期アウトカムとする。								
成果目標及び成果実績 ④-3 (長期アウトカム)		成果目標	定量的な成果指標		単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	目標最終年度 - 年度	
		令和15年度までに、各大学の学部における日本人学生の留学(オンラインを活用した留学含む)経験者の割合を90%とする。	各大学の学部における日本人学生の留学(オンラインを活用した留学含む)経験者の割合	成果実績	-	-	-	-	-	
				目標値	-	-	-	-	-	
				達成度	%	-	-	-	-	
成果実績及び目標値の 根拠として用いた 統計・データ名(出典) /定性的なアウトカムに 関する成果実績		採択大学に対するフォローアップ調査結果								
アウトカム設定について の説明		アクティビティ④について定性的なアウトカムを設定している理由								
		アクティビティ④についてアウトカムが複数設定できない理由								



※ 金額は単位未満四捨五入して記載していることから、合計が一致しない場合がある。

文部科学省  
6,000.6百万円

諸謝金:0.1百万円  
職員旅費:0.2百万円  
委員等旅費:0.2百万円  
庁費:0.1百万円

本事業の選定委員会の審査・評価結果に基づき、採択大学を決定するとともに、これらの大学に対して補助金を交付する。

【補助金等交付】

A.タイプⅠ 採択大学  
(21件程度)  
4,500百万円

【補助金等交付】

B.タイプⅡ 採択大学  
(5件程度)  
1,500百万円

地域社会と一体となったグローバル人材の育成・定着の促進やその基盤となる多様な人材が活躍できる共生者期の実現に向けた取組を通じ、大学全体の国際化を推進する。  
また、日本人学生と留学生が共に地域の課題解決に貢献する国際共修の仕組みを整え、地域における新たな価値やソーシャルイノベーションの創出に貢献。

日本の高等教育の海外展開を行い、世界的な高等教育の発展に寄与するとともに、日本への留学の魅力を発信する。  
また、日本の大学の海外拠点等を活用し、日本人学生が世界の課題会稀有に貢献する仕組みを整備。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)  
(単位:百万円)

費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載)	A.			B.			
	費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)	
	-		-	-		-	
	計			計			
費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載						チェック	